

記者発表（ 発表 ・資料配布）			
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	TEL	発表者名 （担当）
9／25 （火）	森林動物研究センター 環境創造局自然環境課	0795-80-5516 078-362-3463	次長 土岡 正洋 課長 今里 卓

ツキノワグマの出没と注意喚起について

森林動物研究センターが兵庫県下の堅果類（ドングリ類）豊凶調査を行ったところ、**今秋、山のドングリ類は、樹種及び地域により差があるものの全体としては豊作であることが判明**しました。（資料1参照）

本年は**地域によっては既にクマが餌を求めて人里へ大量に出没**しており、多数の目撃情報が寄せられています。**ドングリ類の実りは豊作の見込みですが、今後、冬眠前のクマが餌を求めて、さらに人里へ出没する可能性も**あります。

ハイキングや登山、キノコ採集などで**クマの生息地域に出かける時はもちろん、集落周辺においてもクマの被害にあわないように十分な注意**をお願いします。

1 山の実りの状況（速報）

ブナ	ミズナラ	コナラ	3種全体
大凶	豊	豊	豊

2 目撃・痕跡件数

- (1) 県民等から報告された平成24年度の目撃・痕跡情報は9月18日現在397件で、5～7月については過去最高であったが、8月以降は大量出没年であった平成22年度と比較すると少ない（平成22年度は9月末現在で806件）。（資料2参照）

3 被害発生状況

- (1) 本年8月以降、但馬地域を中心に果樹園や集落のカキなどの食害が発生している。地域によっては集落内徘徊や倉庫侵入も発生している。
- (2) 本年度、現時点では人身被害は発生していない。

4 対応

- (1) クマの出没地域では、
- ① 人里であっても、夕方から朝の時間帯の外出には注意する
 - ② 不要なカキの木の伐採や、カキの実の早めの収穫
 - ③ 果樹園は電気柵を設置する
 - ④ クマを誘き寄せる生ごみを屋外に置かない
などの対策が重要。
- (2) ハイキングなどでクマの生息する山に入るときは音響物（ラジオ・鈴等）を携帯し、出会い頭の遭遇を避けることが重要。（資料3参照）
- (3) 大部分のクマが冬眠に入る12月の中旬ごろまで、十分な注意が必要。
- (4) クマを目撃したり、食害跡、足跡、爪痕などを見つけた場合は、市役所・町役場へ連絡し、早期の対策と地域住民等への周知をお願いします。

添付資料	資料1 堅果類豊凶調査結果概要（速報）
	資料2 ツキノワグマの目撃・痕跡状況（H24.9.18現在）
	資料3 ツキノワグマの被害防止パンフレット